

研修部だより

鳥取市立福部未来学園中学校PTA研修部
平成29年3月9日

今年度、各研修会への参加にご協力いただきありがとうございました。
参加していただいた皆様から寄せられた感想をご紹介します。

7月27日

第43回人権尊重社会を実現する市民集会第3分会

場所：とりぎん文化会館

「あなたの個人情報が売られている」〔講師〕山口県人権啓発センター事務局長 川口 泰司さん

・インターネットで個人情報がこんなにも流出しているのかと、大変驚いた。登録型「本人通知」制度というものを初めて知り、個人情報を流出させないためにも、市役所へ登録すべきだと思った。個人情報の本人通知もあまり気にしていないような些細なことでも入手して、その些細な情報で不正にお金もうけをしている人がいることを知り、不正なことに利用されないためにも、自分の情報は自分で守る必要があると思った。戸籍の不正取得などは未だに有り、公務員や弁護士などが係わっており、こういった人たちは自分の職権を乱用すると何でもでき、大変怖いと思う。個人情報はとてもお金になる。身元調査を依頼する市民の人権教育や、不正ビジネスの取締り、登録型本人通知制度の促進が課題であること、とてもよくわかる会だった。

9月14日

人権啓発セミナー

場所：中央コミュニティセンター講堂

「ネット人権侵害はなぜ怖いのか」〔講師〕鳥取県教育委員会情報教育講師 今度 珠美さん

・普段メディアに対してそこまで意識していなかったのですが、メディアからの情報をうのみにせず、内容を読み解き、いろいろな視点で判断・見極める能力を高めることが必要とされていることが勉強になりました。ネット依存にならないためのルールづくりや発達段階のメディアの理解度も参考になり、メディアの視聴時間、ネットやゲームのレーティングの大切さの理由がよくわかったので、早速実行しました。絵本の読み聞かせや受容・共感・傾聴はこれからも続けたい、頑張っていきたい。あと、ネット情報の公開性・拡散性・記録性の怖さに感銘を受け、家でも子どもたちにうまく伝えられたらと思います。ありがとうございました。

・パソコン、携帯電話、スマートフォン等によるインターネットを利用し、情報の収集発信が手軽にできる今、発信者の匿名や情報発信の簡易さでその特性を悪用した個人に対する誹謗中傷といったプライバシーの侵害や差別を助長する表現等の流布も増えていると思います。そんな中で、私たち大人、子ども共に、その情報が発信者がどちら側に立ちそうでない側からはどう感じるのかという情報を見極める力・考える力（メディアディテラシー）を身につけなければいけない、そしてネットで意識することは、公開性・拡散性・記録性の3つを感知し、特に記録性では声ではなく、文字に写し、投稿したら訂正、削除は困難であるということ意識し利用していかなくてはならない、また、ゲーム・スマホ利用においては1日の利用時間「上限」ルールを決めて依存の要因をつくらないで使用する等、個人の責任やモラル等について理解できた研修でした。

・今度さんの公演は今年度、3回目でした。それだけこの内容が大切なのだと実感しました。メディアディテラシーについては、情報を鵜呑みにすることなく自分で見極める力を私もですが、子どもにもつけたいと思いました。ニュースを見て、話題に取り上げながら、何気なく思っていることを話すことがあります。そのような機会を多く設けたいと思います。また、新聞も読むよう薦めていますが、反応が薄いので、言葉のかけ方を工夫しながらもう少し進めてみようと思います。ネット依存については、ルールを決めているので、今のところ大丈夫だと思っています。（フェイスブック等の危険についても話をしているので）今日の講演会で1番心に残ったことは、子どもに「なるほどね」「確かにね」「すごいね」と声かけをすることがネットやゲームに負けない関わり方だということです。日常、当たり前のことのようで、なかなかできないこと。共感・感受・傾聴を心がけていこうと思います。

・日頃当たり前のようにネットに触れ、考えてみればネットを使用しない日はありません。ニュースなどの情報を得るのには速く便利で、それについて疑問をもつことも無かったように思います。今日のセミナーで「メディアディテラシー」という言葉を教えていただきました。それは、その情報は発信者がどのような糸でどのような文脈を構成しようとしているかを見抜く力・そして背景や影響について考える力だそうです。ネットの情報がすべて正しいと思わず、固定観念にとらわれず、批判的思考をもったり、違う見方をすることが大切だということを考えさせられました。ネットでは、簡単に知らない人とつながることができ、それがメリットになることもあれば、1つ間違えれば、取り返しのつかない大変なことになることを頭において、慎重に使う必要があることを改めて感じ、子どもにもその重要性を理解した上で、ネットを使うように親として責任を持って教えていきたいと思いました。

・今の時代、パソコン、スマートフォンのない生活は考えられない程、私たちの生活に浸透しています。だからこそ、正しい使い方を小さいうちから学ばなければいけないと感じているのですが、教えたり考えたりする側の親が知識が無く、恥ずかしいことに、子どもたちに聞いて使っていることがあるのが実際のところなんです。今回の研修会は、そんな状況を少しでも変えられたら・・・と思い参加させていただきました。情報の見極め、情報発信の責任等、受け側、発信する側の注意する点をお話いただき、子どもたちの成長に合わせてすることや、最終的には当然のことですが、使う人間がよく考えないと取り返しがつかないことになるということを感じました。大人も子どもも、自分は大丈夫という意味の無い自信を捨て、いつでも自分が当事者（被害者・加害者）となる可能性があるということをお忘れず、ネット社会と関わっていかないといけないですね・・・。



10月19日

人権啓発セミナー

「身近な差別に気づき、自ら差別をなくす行動へ」

場所：中央コミュニティセンター講堂

〔講師〕尾崎病院看護師 澤 孝子さん

・認知症の方への接し方、介護の話などご自身が体験された話他、大変考えさせられる貴重なお話が聞けて勉強になりました。

12月3日

鳥取市福部町人権啓発推進集会

「はなしの屑籠」

場所：中央コミュニティセンター講堂

〔講師〕落語家 露の団姫さん

・落語を初めて聞かせてもらいました。楽しくわかりやすく聞けました。露の団姫さんは尼さんにも落語家さんにもなりたいたいの2つの夢を上手くからませながら叶えられたのだなと思うと素晴らしいことだと思いました。講演の中で「一隅を照らす」という言葉を私は知りませんでした。大切な存在・大切な宝物ということ子どもに伝えたいと思いました。一隅を照らす運動を調べると、生命、あらゆる命を大切にしよう、奉仕、みんなのために行動しよう、共生、自然の恵みに感謝しようの3つが出てきました。自分もちろんですが、周りの人も大切にしたい気持ちが重要だと感じました。まずは、我が子へ対し実践しないといけないと感じました。そうすると子どもなりに感じ、行動できるのではないかと思います。

・落語、曲芸、講演とこれまでに経験したことのないめずらしく楽しい人権啓発集会でした。この会でお話いただいた露の団姫さん、曲芸を披露してくださった豊来家大治朗さんの『好きなことに挑戦し、続けていく姿』『お互い信じる宗教がちがっても、その考えを尊重する姿』に「世界中の人がこんな風に考え、行動できれば平和になるのに」と思いました。団姫さんのお話の中に「一隅を照らす これ則ち国宝なり」という言葉が出てきました。それぞれの置かれた立場で精一杯努力することこそ、明るく光り輝くことであり、国の宝であるころ、まさに陰日向なく働く一人ひとりが宝という宝であることを聞き、自分もそのような人間でありたいと思いました。

・落語、太神楽曲芸のあと「あなたも私も宝物」と題した講演を聞きました。仏教落語を初めて聴きましたが、とても楽しかったです。講演も笑いが多く、わかりやすい内容のお話でした。全ての命は平等である。相手の気持ちになったり、相手の立場になってみるということが、人権の基本であることなど、仏教の話を交えながら話されていたので、とても為になりました。

・初めて見た落語でしたが、露の団姫さんのパワーにどんどん引き込まれていきました。講演会の後に「楽しかった」と思えたことは初めてで、参加して本当によかったです。その楽しさの中でも「すべて命が平等で、相手の立場に立って考えるということの大切さ」が心に残りました。「差別」と「区別」はまったく違い、「信仰は人を幸せにする」の言葉に納得しました。その気持ちこそが、人権の土台ではないでしょうか。とてもすてきな講演でした。



ぜひ、来年度も積極的な研修会への参加をよろしく願いいたします。